

知事との県民対話集会（山ノ内町）概要

- ・開催日時 令和4年10月21日（金） 午後2時30分から午後4時まで
 - ・会場 山ノ内町役場 庁議室
 - ・参加者 県民70名、竹節山ノ内町長、阿部知事、直江北信地域振興局長
 - ・テーマ これからの観光と農業の振興について
- ・主な発言（要旨）

【参加者】

- ・これまで融資を得て旅館事業を継続してきたが、融資の返済が始まると経営が厳しい。
- ・全国旅行支援は12月で終わる。スキー関係はもっと続けてほしい。

【知事】

- ・融資や補助金での対応は恒常的にはできない。普通の経済状態に戻すことが重要。
- ・全国旅行支援が12月20日までというのは国の考え。私としては当然年明けも続けると思っている。国にも要請したい。

【参加者】

- ・オーストラリアに行くということだが、我々もキャラバン活動として同行したい。

【知事】

- ・今回は山ノ内町長含め野沢温泉や白馬など行政とインバウンド協議会の方と行く。出遅れないようにスピードを重視したが、今後は広く声掛けをしたい。

【参加者】

- ・体験型修学旅行等誘致促進事業は10月から補助対象が拡充されたが、各種大会は対象外となっている。事業は来年度も継続してほしい。

【知事】

- ・今回の事業は、まずは大学生等にも対象を広げるが、どちらかというSDGsなどにウエートを置いている。
- ・多くの人に来てもらう、という観点ではG7会合も各種大会も同じ。一定規模の大会を引っ張ってくるためには、補助金も大切だが、どのように外へアピールするかが大切。

【参加者】

- ・各種事業は、立案の際に県内市町村や観光連盟のような観光団体と内容を調整の上実施しているか。県及び機構から発出される事業は、決め打ち的に実施される事業が多い。例えば、体験型修学旅行等誘致促進事業。SDGsの観点等は必要だが、観光事業者にとってはコロナからの復旧がまず第一。あえて条件付けする必要があったのか。

【知事】

- ・政策立案の在り方と関係者のコミュニケーションの問題もある。ご指摘の事業でいえば、長野県の強みを活かし教育関係者にアピールするため、物見遊山ではなく生徒の探求的な学びを教育旅行の特色とした。
- ・来年度予算では県民参加型予算の試行を検討している。いずれ政策・予算編成でも県民の意見を入れるようにしていきたい。

【参加者】

・コロナ禍が長く続いたことで観光業や飲食業の人材がほかの業界に流出が起き、現状慢性的な人手不足でコロナ前のような対応が難しくなっている。

【知事】

・人手不足はすべての産業で共通。人口減の問題、様々な分野の人材確保はもっとも重大な課題。
・長野県に生まれ育った子どもが、小・中・高の各段階で県内のよさを学ぶ教育を行い、長野県が世界に誇れることを知ってもらいたい。あるいは世界から長野県に来てもらうような県にしていきたい。

【参加者】

・山ノ内町の資源である温泉を活用し、バイナリー発電を行い、温泉の二次利用、三次利用を県、町、民間が協働で進めていくことができればと考える。

【知事】

・長野県はスキー場や農業など気候変動には敏感な県という認識があり、歯止めをかけるため長野県から自然エネルギーや脱炭素に取り組む必要があると思っている。
・自然エネルギーの利用は地域の合意形成が一番難しい。地域のやろうという気持ちを踏まえて我々も取り組んでいきたい。

【参加者】

・町内の農地は毎年、鳥獣害による被害が発生している。県として、今後どのような対策を講じるか。
・ツキノワグマは絶滅危惧種と言われるが、山ノ内町では増加傾向。熊、猪、鹿は同じ扱いとして有害鳥獣駆除を実施することはできないか。
・くくり罠を設置すると熊が捕まることがある。錯誤捕獲となった熊については緊急捕獲を許可できるようにしてもらいたい。
・住家付近に出没した熊が木の上に逃げた場合、緊急対策として捕獲許可を出せる制度にしてほしい
・志賀高原はサルの被害も多い。窓からのぞくこともある。その都度追い払ってはいるが。

【知事】

・県全体では鳥獣被害額自体は減少してきている。鳥・熊・猿でアプローチを変えて対策している。
・熊の関係はどういうときに、だれが捕獲していいのかが曖昧。交通整理が必要。対応を検討する。

【直江地域振興局長】

・熊は県の計画でも人が住んでいるところでは町に許可を出してもらうような制度を検討している。今後地域の皆さんとも話を詰めていきたい。

【参加者】

・Iターン者等の新規就農者への補助の充実が進んでいるが、実際に農村を支えているのは、高齢の農家。高齢農家の負担軽減のためにも国や県の対応が必要では。
・ある程度の年齢の者はIターンの補助を受けられないという補助金もある。こうした人は農業収入のマイナスを別の仕事で補っている。
・後継者がおらず、今後5年くらいで農業を廃業する人が出てきてしまうのではないかと心配している。

【知事】

・農業を安定的にしていくためには、後継者や新規参入などの特性に応じた支援の在り方をトータルで考えていかないといけない。究極は人材の確保にいきつくと思う。今農業を行っている方の支援も確かに大切だが、それ以上にその先がもっと厳しい。県ではその厳しい「その先」の担い手の確保に支援が向いている状況。ご指摘の視点を受け止めて考えていきたい。

【参加者】

・NHKで山の保育園が3日くらい放映され、入園希望が殺到しているようだ。補助金を活かして自然を活かした保育園をしたら都会の人がいっぱい来てくれると思う。

【知事】

・子どもたちには長野県の豊かな自然に触れ育ってもらいたいし、やまほいくを目的に移住する人もいる。人材確保にもつなげていきたい。